

「^{にほん}日本で^{あか}赤ちゃんを^う産む」

申 男 Shin Nam (韓国)

(ルーテル大学大学院社会福祉学科)



わたしは以前から赤ちゃんがかわ
いくてしかたがなかった。そし
て今年結婚し、赤ちゃんを授か
ることができた。

学生をしながら主婦と妊婦生活をするのは簡単ではなく、
時には学生を辞めようかと思っただけだった。ツワリがひど
くなり、鬱状態になり、夏ばてになったりして、身体状態が常
に変化し気持ちもいつも揺れていた。状況はさらに悪くなり、
夫の会社が破産し経済はより厳しくなった。夫や家族は帰国
するようになると私に言った。でも、私はいつか大学院を卒業し
た私に「ママ素敵！」と子供が言ってくれるようになりたか
った。そのためにはどんなことがあっても努力し、乗り越え
なきゃと思っただけ。

こんな状況で揺れる私に、おなかの小さい小さい命の音が
聞こえてきた。「ママ！私も頑張るから、ママも頑張ってよ」
と。いつもいつも聞こえているような気がしていた。

私のもう一つの支えになってくれたのは、先生と学校の
同級生、先輩と母子学級の同級生の方々だった。先輩妊婦さ
んの友達の鬱を乗り越えた経験話や母乳をよく出させるため
のマッサージや母子学級の情報交換など、周りにはいる全ての

かたがた かんこく はな にほん こども う わたし もと
方々が韓国から離れ日本で子供を産む私のパワーの元になっ
てくれたのだ。

ういざん わたし
初産の私は、まず赤ちゃんをどこで産むのかを決めなくて
はならなかった。がくせい
学生をしていることで、にほん う
日本で産みたかつた。そこでびょういんだい やす
病院代が安くて、あんしん
安心できるびょういんさが
病院探しを、がっこう
学校の
せんぱい
先輩ソーシャルワーカーがしら くだ
調べて下さり、いえ ちが くがやま
家に近い久我山
びょういん しょうかい
病院を紹介してくれた。

くがやまびょういん わたし ぼこうしゅっしんしゃ なんにん あんしん あか
(久我山病院は私の母校出身者が何人もいて安心でき、赤
ちゃんのなや
悩みごとに24時間親切におうたい
対応してくれるところ
所だ。いま
でもよなかりゆう
夜中理由なく、あか
赤ちゃんがなや
泣き止まないときあか
赤ちゃんに
いへん
異変があるときなどふあん
不安なときはよなか
夜中でもついでんわ
電話をしてしま
う。こそだ
子育てにはさいてき
最適なびょういん
病院だと思う。)

はじ
初めてのしゅっさん
出産なのであか
赤ちゃん用品はな
何もなかった。あか
赤ちゃん
のようふく
洋服やベビーカーやベビー用風呂などいろいろあか
色々な赤ちゃん
ようひん
用品はがっこう
学校のとうきゅうせい
同級生がゆず
譲ってくれた。そのなか
中にはあか
赤ちゃん
ようつめき
用爪切りまではい
入っていた。またがっこう
学校のせんせい
先生のしょうかい
紹介で、さつぽる
札幌の
にじ
二児のははおや
母親の方より、かた
肌着やあか
赤ちゃんのふるぎ
古着がたくさんとど
届け
られ、ベビー用品は何からなに
何までそろ
揃い、こうにゅう
購入するひつよう
必要はまっ
たくな
無くなった。その後、そのかた
方とはメールでいくじこうかん
育児交換をし
ていていまではメールともだち
友達になった。 ^ 0 ^ . .

いま
今は、ちい
小さいあか
赤ちゃんといっしょ
一緒にがいしゅつ
外出が大変なので、つね
常に
メールでいくじじょうほう
育児情報やなや
悩みごとをぼし
母子仲間達とこうかん
交換している。

わたし くに はな にんしん
私は国を離れて妊娠したので不安でいっぱいだったが、多
くの日本人の支えがあり、安心して出産を迎えることができ
たと思う。日本での出産の経験を通じて、悩みごとや生活ニ
ーズや仲間探しなど社会にある制度を利用することの大切さ
を知り、社会資源を利用することで出産を乗り越えられたと
思う。

じゅうがつとおか
10月10日に(3,168 g)元気な男の子が生まれた。今は、学校
の授業にも赤ちゃんを連れて行っている。私の赤ちゃんはゼ
ミの皆や先生方に愛されている。さわやかな赤ちゃんパワー
と共に新米ママの私は「とても幸せ」で、将来の夢に向かっ
て夢中で走っている。

(2 0 0 2 年 1 2 月 8 日)